

## 木曾御嶽山の勸請

古賀志山主稜線に「御嶽山」と称するピークがある。古賀志山に関するガイドブックやパンフレットには、このピークに「御岳」の字が充てられ、この不正確な名称が罷り通っている。正しくは「御嶽山」である。幕末期の弘化四年（1847）、古賀志村民は、木曾御嶽山の御神体を勸請した経緯がある。その物的証拠が残っている。

### （1）御嶽山道の道標



昭和20年代迄、街道縁に古賀志石の「御嶽山」への入口を示す石柱道標が立っていた。

正面に「御嶽山道 古賀志中」とある。この石柱道標の建立は大正元年（1912）である。昭和中期、ガソリンスタンドのブロック塀設置の折、半折し現在に至る。



半折した道標は、ブロック塀の裏側に現存する。

その左側面の次なる陰刻である。

「天下太平 国土安全 村内安穩 衆久安鎮 風雨順時 五穀豊穰」とある。

その下に勸請年が見える

「弘化四年 開設」とある。

古賀志村民は、弘化四年に勸請したことをこの道標に刻んだのである。

## (2) 幟旗



左の写真は、御嶽山の祭礼の際に揚げた幟場である。墨書には「奉納御嶽山大神祭礼」とある。祭礼は、春は四月癸丑、秋は十月の「十三夜」、年2回二行われた。祭礼の折には、道標の脇に二本の幟旗（左写真）が揚げられた。（北條和正氏保管）

## (3) 御嶽山の石祠



木曾御嶽山の御神体は「御嶽

<sup>みはしら</sup>三柱」である。御嶽三柱とは、

<sup>くにとこたちのみこと</sup>「国常立尊」、<sup>おおなむちのみこと</sup>「大己貴命」、

<sup>すくなひこなのみこと</sup>「少彦名命」を指す。

古賀志山の御嶽山の石祠にも、石板に陰刻された御嶽三柱が祀られている。古賀志村民は、一度も「御岳」なる標記をしていない。

以上の物的証拠から古賀志山主稜線のピークである御嶽山に「御岳」の字を充てることは間違いである。

#### (4) アルマヤ堂ありき



御嶽山の岩壁真下の岩窟にアルマヤ堂跡がある。木曾御嶽山勸請の名残で木曾御嶽山の「最後の峰」なるアルマヤ天(2897<sup>祀</sup>)に由来する。嘗てアルマヤ堂には天狗の像があったが現存していない。奥に湯殿山の石祠が祀られている。

#### (5) おんたけさん 御嶽山、ゆどのさん 湯殿山、こがしさんおおかみ 古賀志山大神の遷座



御嶽山の祭礼に係る三か所の拝所は、麓に遷座した。中央に御嶽山、右に古賀志山大神、左に湯殿山である。祭礼には宮司が祭司を務めるが、高齢化が進み麓に遷座したのは時代の流れである。